

転機を迎えた農薬業界

戦後、順調に拡大成長したわが国の農薬市場は、昭和50年代に入り、成熟期を迎え、量的拡大が期待できない状態に至っている。さらに、最近の厳しい農業事情から、農家の購買力に陰りが生じ、肥料・農機・農薬など、生産資材全般に節約ムードが現われている。

一方、農薬の供給側の事情は、市場に転機が生じている中で、その志向に大きな変化は窺われず、マーケット規模に比し、過剰な製剤、流通機能をもって、熾烈な販売競争が繰り返されている。また、原体分野でも、大手化学メーカー等の参入の動きが、依然として顕著である。

新農薬開発は、期間の長期化、費用の膨大化、確率の低下など、開発企業にとっても、リスクな事業となっていることから、新剤が開発上市された場合、開発経費の早期回収のために、販売促進をエスカレートさせざるを得ない事情がある。

農業側にとって、豊富な供給と競争は、一見、不都合ではないともみられるが、本来、技術商品である農薬は、技術指導を前提とした着実な導入普及が必要であり、無選択に農家が競争に曝されることは、望ましいことではない。

こうした状況をふまえ、業界の関係者が実態を直視し、生産・販売・流通の各分野にわたる徹底した合理化により、事態に対応されるとともに、リーダーと目される方々の“競争か協調か”“秩序か波乱か”岐路にあたっての誤りなき判断と行動が求められている時と思考する。

〔財団法人 日本植物調節剤研究協会理事 鷺海幹雄〕
全国農業協同組合連合会 肥料農薬部長

目次 (第16巻第3号)

パラグアイ国の作物栽培事情	2
---------------	---

<佐々木 正剛>

はじめに	2
1. パラグアイ国概況	2
2. 土地の利用状況	3
3. 農薬生産の概要	5
4. イグアス地域の概要	6
5. 畑作の実態	8
6. 畑作の問題点	13
おわりに	13

施設野菜栽培における除草剤	13
---------------	----

<野菜試験場栽培部長 栗山尚志>

1. トマト	14
2. ナス	16
3. ピーマン	17
4. イチゴ	18
5. キュウリ	19
6. スイカ	19

昭和56年度常緑果樹関係除草剤・生育調節剤試験成績概要	20
-----------------------------	----

<財団法人 日本植物調節剤研究協会>

タチガレンの登熟向上効果について	36
------------------	----

<農業技術研究所 太田保夫>

新登録除草剤一覧	41
----------	----

新登録生育調節剤一覧	44
------------	----

<農林水産省農蚕園芸局植物防疫課>